



米

中干し後の管理と 病害虫防除対策



岡部営農経済センター
池田 昌行

間断かん水とは「浅水にして、水が無くなって
も1〜2日そのままにしておき、再び浅水程度に
水を入れる作業を繰り返す」ことです。これを中
干し後に行うことで、根の張りを良くして倒伏や
秋落ち防止・登熟向上に繋がります。
※穂肥を施肥する場合は、充分かん水をして、3
日間は止め水で行います。

《高温障害対策》

こまめな間断かん水で根の機能活力維持を図
り、呼吸作用の増加を抑制するため、冷たい水と
の入れ替えを行います。特に日中の気温が35℃、
夜温が25℃を超える日が続く場合は、かけ流しか
ん水を行いましょ。出穂後5〜15日は夜間通水
し、ほ場内の夜温を下げることで高温障害（乳白
米）に対して効果があります。

《病害虫対策》

出穂期前後に病害虫の被害を受けると、米の品
質・収量に影響するので必ず行ってください。エ
バーゴルプラス箱粒剤を使用した場合は、紋枯病

まで防除は不要なので、ウンカ、カメムシ防除を
行ってください。エバーゴルプラス箱粒剤以外を
使用した場合は、ウンカ、カメムシに加え、紋枯
病、コブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトム
シの防除が必要です。

粒剤の場合

・ルーバンリンバー粒剤
3 kg / 10 a (収穫30日前まで)

液剤の場合

・ダイアナSC 5000倍 (収穫7日前まで)
・モンカットフロアブル 1000倍 (収穫14日前まで)

《斑点米カメムシへの対策》

斑点米カメムシの加害を受けた斑点米は、等級
を落とす大きな原因になります。斑点米カメムシ
の特性は、普段は畦畔や耕作放棄地などのイネ科
雑草で暮らしていて、イネが出穂すると畦畔など
から水田に飛び込み、穂を吸汁します。出穂10日
前までに畦畔やほ場周辺の除草を行ってください。
い。

《穂揃い期〜乳熟期にかけて2回は防除を》
カメムシ防除

粒剤の場合

・スタークル粒剤 3 kg / 10 a (収穫7日前まで)
・スタークル豆つぶ 250g / 10 a (収穫7
日前まで)

・いもち病多発地区はイモチエーススタークル粒
剤 3 kg / 10 a (収穫35日前まで)

液剤の場合

・スタークル液剤 1000倍 (収穫7日前まで)
・いもち病多発地区はブラシンフロアブル
1000倍 (収穫7日前まで) をキラップジョー
カーフロアブル 1000倍 (収穫14日前まで)
と混用で散布

1回目は、穂揃い期に必ず散布をしましょう。

2〜3回目は前回散布から7〜10日後に散布しま
す。粒剤で散布する場合は、液剤散布より3日前
に散布をしてください。日中暑い場合は、朝か夕
方に散布し、雨が多い時は、晴れの合間をみて行
いましょう。